第２５号

©19-004

つつきの

令和４年１月１日発行
京　田　辺　市
観光ボランティアガイド協会
広　報　部　編　集
☎　０７７４－６８－２８１０

令和４年　新年を迎えて

副代表　田原博雅

新年あけまして おめでとうございます

昨年新たに８期生が入り、我々の仲間も増え、総勢４０名近くになりました。しかし、昨年は、新型コロナウイルスのため、我々の活動を縮小せざるを得ない状況になりました。そのような中ではありましたが、できる限りハイキングのイベントを行い、参加された方々に大変喜ばれたように思います。

今年度は、新型コロナウイルスも終息することを期待し、新たな活動を目指したいと思います。

まず、昨年度を含め、長い間コロナで止まっていた外部・内部の研修会を行い、お客様に満足していただき、京田辺市の良さをアピールできるよう益々のスキルアップを図ります。

それに加え、“お茶の京都 DMO”や近隣のボランティアガイド協会等と協力体制を構築し、充実したコース設定ができないか検討を重ねます。

また、これから加速していくであろうデジタル化に備え、ホームページの充実等にも取り組んでまいります。

更には、コロナが終息した後、増加するであろう外国人に我々が対応できるようなスキルの向上も図らねばならないと考えています。

これからも皆様方に喜んでいただけるよう努力してまいります。

どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

管外研修報告

～継体天皇陵墓を訪ねる～

当協会では、管外研修として１年に１回、京田辺市と関連性のある京田辺市以外の場所を訪ねている。今年度は京田辺市に都を造営したと伝わる第 26 代継体天皇の陵墓を訪ねた。

昨夜の雨が続いていたが、２１名の参加者は、今日の行程を思い描きながらバスのシートにゆったりと身を委ねた。高速道路を利用すると全く渋滞はなく、青空も見え始め、上々のスタートだ。

最初の目的地は、太田茶臼山古墳。宮内庁治定の第２６代継体天皇陵だ。玉石を踏んで進むと目の前に鳥居とうっそうと繁った小高い森が見える。さすがに、天皇陵にふさわしい厳粛な雰囲気が漂う。

続いて、新池ハニワ工場公園で登り窯を見学する。漫画でハニワの説明がしてあり、わかりやすい。

次は、今回の研修の目玉、真の継体天皇陵として有力視される今城塚古墳に向かう。

玄関で受付を済ませて、歴史館の展示を見学する。新しく発見された太鼓型埴輪が公開されていた。

その後、高槻市文化財スタッフの方に、古墳の案内をしていただく。嬉しいことに墳丘の上を自由に歩けるという。両側の造り出しもはっきりと残っている。墳丘中心部には、531 年（継体天皇没年）と 2011 年（整備終了年）が記された鉄板が埋め込まれていた。墳丘長 190m の古墳の上は歩きごたえがあり、木々の間を歩き、バスに戻ると、額に汗が滲んでいた。

安満遺跡公園でランチ休憩したあと、安岡寺に立ち寄り、十一面千手観音菩薩像を拝観する。高さ 1.4m の一木造のどっしりとした座像だ。ご住職から親しくお話をいただいた。

再び名神高速道を利用して、京田辺市庁舎に無事にたどり着いた。古墳の上を歩けて、いささか高揚した気分で帰路についた。　（保野）

ガイド日誌

重要文化財澤井家住宅で草木染め体験

～クチナシで染める素敵なネッカチーフ作り～

JR大住駅より１５名の参加を頂き少雨の中のスタート。重要文化財澤井家住宅へは宮家の門である黒門から入り、管理人の亀村様より澤井家住宅の歴史のお話を伺いました。澤井家住宅は曇華院門跡を迎えられた家屋です。その意匠の丁寧な説明を聞き、じっくり見学を楽しんだ後、いよいよ草木染めの体験です。

お庭で植えられているクチナシの実を乾燥させたものを見せていただき、ミキサーで撹拌、搾り汁を煮た液で染色をします。皆様割り箸と輪ゴムでローンの布を挟み、好みの柄を作ります。

どんな柄に仕上がったかわくわくしながら輪ゴムを外し、アイロンをかけて乾燥。クチナシの実で染めたネッカチーフは気品ある爽やかな黄色に染まり、初めての体験に皆様からの歓声が上がりました。

その後、天津神社から月読神社へ散策。比叡山と愛宕山を望むのどかな道をたどり、参加の皆様には素敵な散歩道と喜んで頂きました。次なる体験もお楽しみに。お待ちしています。

（北田）

黄金色の田園風景と牛廻し跡を訪ねて

～秋を満喫　豊作に感謝　牛にも感謝～

穏やかな秋空の下、JR 京田辺駅→月読神社→黄金色の田園風景→松井牛廻し跡→JR 松井山手駅まで歩きました。月読神社西側の古溜池の堤防から右に比叡山、左に愛宕山、中央に千年の古都：京都が遠望できました。

目の前に区画整備された、棚田が広がります。弥生時代に渡来した稲作を、人々が長い年月工夫に工夫を重ねた汗と努力の結果が、眼前の黄金の田園風景です。しっかり実った稲穂を見ると感謝・感激です。米作りは、いつの時代も生活の基盤であり、棚田に見事に実った稲穂は先人から送られた宝物なのです。

松井向谷に牛頭天王を祀る塚を訪ねました。機械化前、耕作に必要な牛は家族同様に大切され昭和３０年代中頃まで、農家の人達はここに牛を連れてきて、その働きに感謝し、この塚を３回廻らせ、その健康と安全を願ったそうです。農家の人々の思いが伝わってきます。

お客様と共に実りの秋を満喫し、農家の人達に感謝しながら、ハイキングを楽しんだ一日でした。

（近藤和）

玉露の里京田辺で茶香服体験

～京田辺北部の古代を歩こう～

１０月７日（木）、季節をこえて続いていた暑さが、この日は幸運にも、歩いても心地よい気温に変わっていました。

「玉露の里京田辺で茶香服（ちゃかぶき）体験」は、年２回・春と秋に実施する人気の体験ツアーの一つ。

今回は、コロナ緊急事態宣言が解除されてすぐの日程であったため、様子伺いで比較的出足の少ないものになりました。そこで、参加者２２名全員の「利き茶体験」を一度に行うことになり、予定のコースを反転、「月読神社」に集合した後、「北部住民センターで茶香服体験」、「大住車塚古墳」、「天津神社」の順路となりました。

なかなか味わえない美味しいお茶を戴いた後、稲刈り寸前の黄金色に満ちた棚田の畔道をゆったり歩く。参加の皆様からも「非日常の豊かな時間を過ごせた」と、うれしい評価を頂き、更に、路すがらの案内で、大住地区に興味をもって頂いた数名の参加者の方には新年３月の「両讃寺関連ツアー」の参加を予定に入れて頂くことができました。

（桑田）

茶香服（ちゃかぶき）：茶道の七事の一。銘を秘した数種の茶を味わっておいて、後でその銘をいいあてるもの。（広辞苑）

Coming Soon!

今後の行事の見どころ案内

新春を寿ぎ京田辺のお酒の神様を巡る

年明け早々、ふれあいハイクを実施いたします。併せてありがたい観音寺の十一面観音立像を拝観いたします。

京田辺市には、お酒に関係する神様が二社あります。

一つは、佐牙（さが）神社です。古代の酒は、巫女にコメをかませて唾液と混ぜ、それを壺にためて発酵させて作ったと言われています。新しく酵母菌を使って醸造する技術をもった佐牙彌豆男（さがみづお）神と佐牙彌豆女（さがみづめ）神の二神が渡来したと言われています。ここには、この二神がお祀りされています。

もう一つは、酒屋神社です。神功皇后が三韓征伐のおり、三個の酒壺を神社背後の山上に安置し、帰国後その霊感に感謝して社殿を創立したということです。

この二つの神社を参拝いたします。併せて観音寺で国宝の十一面観音立像を拝観したいと思います。

観音寺の十一面観音立像は、天平仏（奈良時代中期の仏像）を代表するもので、昭和２８年に国宝に指定を受けています。天平１６年（７４４）今からおよそ１２８０年前、良弁僧正開基の仏さまです。

観音とは、正しくは、観世音菩薩もしくは観自在菩薩といって、衆生の救いを求める声を観し、自在にこれを救うといわれている、ありがたい仏さまです。多くの方の参加をお待ちしています。

●実施日：令和４年１月２２日（土）
●参加費用：５００円（別途観音寺拝観料４００円必要）　　雨天決行
●コース：ＪＲ三山木駅（集合９：３０）→佐牙神社→観音寺→酒屋神社→ＪＲ同志社前駅（解散１２：３０）歩程約８㎞

（土居）

一筆書きで甘南備山巡り

～京田辺のシンボル甘南備山を知り尽くそう～

京田辺市のシンボル甘南備山。私の住まいから外出するときは必ず見ることが出来、京田辺市民の皆様も散歩やお仕事に行くとき等で、しょっちゅう目にされている甘南備山。ところが意外に知らない方が多い事を知り、今回はその甘南備山を紹介し知り尽くそうと企画しました。

ご存知でしょうか？なんと登山マップに記されている小径が１６道あります。さらにメイン登山道の管理道路、旧登山道があり、甘南備山を楽しめる道が全部で１８道あります。山中は保存会の方々がボランティアで間伐や清掃をされており、ごみ一つない快適な登山が楽しめます。

今回のコースは旧登山道からスタートし、一筆書きのごとく、交差はしますが、同じ道を一回しか通らない道を選びハイキングするルートを歩きます。最初の旧登山道と雨乞いの小径が急坂ですが、距離はそう長くないです。随所に滝、堰堤、木製ダムがありガイドが案内します。後は緑豊かな整備された小径を、アップダウンを繰り返しながらハイクします。

最初はもっと簡単に外周の道も回るコースを考えていたのですが、結構きつく時間的にも無理そうでしたので今回は全体の３分の２ぐらいを周ります。実施までに、この企画を、さらにより良くしようと調整しています。ご期待ください。

●実施日：令和４年３月１１日（金）
●参加費用：５００円　雨天中止
●コース：ＪＲ京田辺駅（集合８：３０）→甘南備山登山道入口→旧登山道→尾根の小径→三角点→うめの小径→ヒノキの小径→トイレ・展望台→神南備神社→峰の小径→薬師の小径→A3→芝生広場（トイレ）→登山口→JR 京田辺駅（解散１２：３０頃）　歩程約９㎞

（園上）

行事のお問い合わせ、お申し込みは「京田辺市駅ナカ案内所」（9:00～17:00）へ。☎0774-68-2810

京田辺の祭りと神事シリーズ～大住隼人舞①～

♪『神の魂結う　俳優の　隼人の子孫らが移り来て　三里豊かに開きつつ　奈良の朝廷に捧げたる誉も高き隼人舞』♪

志賀剛博士・牧山望先生（九州日枝神社隼人舞継承者）作詞『隼人舞の歌』の一節である。

志賀剛博士は式内社研究のため月読神社を訪れ、古文書などから「大隅隼人は古代九州大隅半島から現在の大住に移住し、奈良朝廷での宮廷の警護や大嘗祭等宮廷儀式で、隼人舞を奉じていた」ことを究明。文化協会会長中川健三氏に途絶えていた隼人舞の復活を勧められた。それが大住隼人舞である。

そして牧山望先生や地域住民・行政当局の協力により、昭和４６年（１９７１）１０月１５日、月読神社例祭にて隼人舞が復活奉納され、翌年からは宵宮に毎年奉納されるようになった。

昭和５０年には、大住隼人舞は田辺町無形文化財第１号の栄誉を受け、昭和５１年に隼人舞保存会が結成され、その実施運営を盤石なものとした。なお、昭和５１年に天津神社が奉納先に加わった。

大隅隼人創基の月読神社

古代から継承されている九州隼人舞は、日本書紀の海幸彦・山幸彦の神話に基づくものである。

平城京で発掘された隼人の盾

その神話とは、海で漁をする海幸彦、山で猟をする山幸彦兄弟が、あるとき、お互いの道具を取替え業に励んだ。ところがそれぞれ獲物は取れず、あろうことか弟の山幸彦は兄の海幸彦の釣り針を魚に取られてしまった。そこで山幸彦は、自分の剣を潰し釣り針を作り、海幸彦に詫びを入れたが、兄は許してくれなかった。山幸彦は途方に暮れ泣いていたところ、塩土老翁が現れ竹で編んだ目無し船に彼を乗せ海中の海神の宮殿に向かわせてくれた。山幸彦は、海神の宮殿で海神の娘豊玉媛尊と契り、楽しい三年を過ごした後、鯛の喉に刺さっていた釣り針も取り戻し、サメの背に乗り帰着した。

彼は、釣り針を海幸彦に返すとき、海神から教えられた「子孫まで貧しくする呪文」を唱え、さらに海幸彦が海辺で釣りをしているときに、海神から教えられた「口笛」を吹いて疾風を呼び、高波で海幸彦を溺れさせた。すると兄の海幸彦はたちまち弟の山幸彦に降参し、兄は子々孫々まで俳優の民となって弟に仕えることを誓った。（小川）

次号につづく

京田辺市観光ボランティアガイド協会の

ホームページ＆ブログとフェイスブックがあります！

これからの行事予定、天候による行事の可否のお知らせ、ガイドの様子など、見ることができます！ご活用ください♪

©19-004

●ホームページアドレスはこちら　↓

https://kyotanabe-guide-volun.jimdofree.com

ホームページ QR コード⇒

フェイスブック ←QR コード

●フェイスブックアドレスはこちら↓

https://www.facebook.com/kyotanabe.volunteer.guide/